



2020年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年5月15日

上場会社名 株式会社フォーシーズホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 3726 URL <http://www.4cs-holdings.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 天童 淑巳
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理副本部長 (氏名) 上畠 正教 (TEL) 092-720-5460
 四半期報告書提出予定日 2020年5月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年9月期第2四半期の連結業績(2019年10月1日~2020年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年9月期第2四半期	907	△3.4	△166	—	△172	—	△182	—
2019年9月期第2四半期	939	△13.4	△167	—	△172	—	△199	—

(注) 包括利益 2020年9月期第2四半期 △183百万円(—%) 2019年9月期第2四半期 △199百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年9月期第2四半期	△26.98	—
2019年9月期第2四半期	△29.17	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年9月期第2四半期	2,300	852	36.8
2019年9月期	2,580	1,037	40.0

(参考) 自己資本 2020年9月期第2四半期 847百万円 2019年9月期 1,031百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年9月期	—	0.00	—	—	—
2020年9月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2020年9月期の配当予想につきましては未定です。

3. 2020年9月期の連結業績予想(2019年10月1日~2020年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,300	17.5	104	—	96	—	62	—	9.11

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 1社(社名) 株式会社HACCPジャパン、除外 1社(社名) 株式会社サイエンスボーテ
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年9月期2Q	6,973,470株	2019年9月期	6,973,470株
② 期末自己株式数	2020年9月期2Q	191,730株	2019年9月期	191,590株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年9月期2Q	6,781,790株	2019年9月期2Q	6,824,533株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績予想に関する記述は、当社が本資料の発表日現在で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、当社の事業を取り巻く経済情勢、市場動向等に関する様々な要因により、記述されている業績予想とは異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(企業結合等関係)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、昨年10月1日の消費税引き上げ後の消費意欲の回復の期待、世界情勢においても米中貿易摩擦の緩和、中東情勢の落ち着きに加え米国の政治安定化期待など好材料はありましたが、新型コロナウイルスの感染拡大は国内外経済において大きなマイナスの影響を長期にわたり与えております。国内経済においては、訪日客の減少に伴うサービス輸出の減少、東京オリンピックの延期や各種イベントの中止、外出控えなどによる先行きの不透明感が強まっております。そのような情勢の中、当グループにおきましても既存顧客の買い控えやインバウンド需要の見込みが大きく低下しましたが、各事業会社においては販売チャネルの拡大に向けた積極的な先行投資として、WEB営業に対する広告宣伝や販売促進を強化することにより、新規顧客獲得が前年と比較し大幅な増加となり、電話オペレーター中心の営業からWEB営業への方向転換も順調に進んでおります。また、新ブランドの譲受、新商品の開発など、それぞれの特性に合わせた施策を推進してまいりました。その結果、コロナウイルス感染の影響で化粧品業界全体の売上高が厳しい状況下において、当グループは前年に近い売上高まで伸ばすことができましたが、当第2四半期連結累計期間においては、その先行投資にかけた予算を回収するまでには至っておらず、予想を下回る業績となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高907,598千円（前年同四半期比3.4%減）となり、営業損失166,682千円（前年同四半期は営業損失167,691千円）、経常損失172,406千円（前年同四半期は経常損失172,455千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失182,963千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失199,046千円）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第2四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

(コミュニケーション・セールス事業)

コミュニケーション・セールス事業におきましては、売上高569,927千円（前年同四半期比11.6%減）、セグメント損失175,842千円（前年同四半期はセグメント損失173,335千円）という予想を下回る結果となりました。

コロナウイルス感染の影響は予想以上に大きく、既存顧客の買い控えや新規販売チャネルである卸先の取引も延期となり、非常に厳しい環境が続いております。しかしながら、WEB営業につきましては、広告宣伝や販売促進を強化することにより、新規顧客の獲得と売上高は前年を大幅に上回ることができました。また、第3のブランドとして薬用オールインワンジェル「エニシングホワイト」を譲受いたしました。

下期につきましては、WEB営業の新規顧客の引き上げ強化による定期顧客化、国内市場・海外市場において量販店舗への卸しの再開、新ブランド「エニシングホワイト」の6月からの販売開始、除菌用商品「ウィルスリムーバー」の既存顧客や法人への営業も順調に進んでおり、さらに一層の営業効率の効率を図ってまいります。

(化粧品卸事業)

化粧品卸事業におきましては、売上高311,925千円（前年同四半期比5.1%増）、セグメント利益19,249千円（前年同四半期比32.2%減）となりました。

国内卸営業においてはコロナウイルス感染によるインバウンド需要の見込みが大きく下回り、前年対比・目標対比とも大幅なマイナスとなってしまいました。しかしながら、前期よりEC販売と海外展開への販売チャネルの拡大を強化しており、中国ではTmall旗艦店が2月28日OPEN、ナチュラルアクアジェルをはじめ、他の製品も好調に推移しており、ECと海外営業共に前年対比・目標対比とも大幅にクリアすることができました。また、新商品開発も積極的に実施しており、オーガニックヘアケア商品Laret（ラーレ）を開発し4月より販売開始しております。

今後は、さらに認知度を高めるために広告宣伝費の投下やPRの強化、EC販売や海外への積極的展開を強化してまいります。

(衛生コンサルティング事業)

衛生コンサルティング事業におきましては、売上高26,974千円、セグメント損失28,251千円となりました。

2020年6月の食品衛生法改正に向けて、セミナー開催や展示会へ積極的な出展、「福岡市実証実験フルサポート事業」に採択される等、認知度を高める活動に注力しております。積極的な広報活動により多くの需要があるため、社員を採用し機会損失を防ぐ対応をとっておりましたが、コロナウイルス感染により、セミナーや展示会の全面中止や飲食店の営業停止により、営業活動自体を自粛せざるを得ない状況となっております。しかしながら、4月より販売を開始している「空間除菌デバイス DevirusAC (デヴィルスエーシー)」の問い合わせを多くいただいております。

今後は、さらにグループのシナジー効果を最大限に活かし、さらに積極的な営業活動を強化し受注増に繋げてまいります。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産の残高は2,300,423千円(前連結会計年度末2,580,139千円)、その内訳は流動資産1,823,799千円、固定資産476,624千円となり、前連結会計年度末に比べ279,715千円減少いたしました。これは主に、現金及び預金の減少139,797千円、売掛金の減少51,146千円、顧客関連資産の減少17,153千円等によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は1,447,787千円(前連結会計年度末1,542,787千円)、その内訳は流動負債1,002,803千円、固定負債444,983千円となり、前連結会計年度末に比べ94,999千円減少いたしました。これは主に、買掛金の減少6,532千円、株主優待引当金の減少40,799千円、短期借入金の減少50,000千円、1年内返済予定を含む長期借入金の減少71,474千円等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は852,636千円(前連結会計年度末1,037,351千円)となり、184,715千円減少いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失182,963千円の計上によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、1,111,816千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用された資金は、45,388千円(前年同四半期は217,992千円の使用)となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純損失171,989千円、減価償却費25,043千円、株主優待引当金の減少40,799千円、売上債権の減少60,956千円、たな卸資産の減少20,164千円、仕入債務の減少38,832千円、法人税等の還付額38,399千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は、22,736千円(前年同四半期は5,618千円の使用)となりました。

これは主に、定期預金の払戻による収入50,023千円、事業譲受による支出15,000千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用された資金は、122,624千円（前年同四半期は102,686千円の使用）となりました。

これは主に、短期借入金の返済による支出50,000千円、1年内返済予定を含む長期借入金の返済による支出71,474千円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年9月期の連結業績予想につきましては、2019年11月14日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

詳細につきましては、本日（2020年5月15日）公表いたしました「第2四半期累計期間における業績予想と実績の差異に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,451,925	1,312,128
売掛金	154,506	103,360
商品及び製品	327,711	328,670
原材料及び貯蔵品	25,909	37,272
その他	136,150	42,383
貸倒引当金	△7	△14
流動資産合計	2,096,196	1,823,799
固定資産		
有形固定資産	23,360	34,148
無形固定資産		
のれん	81,014	88,059
顧客関連資産	300,192	283,038
その他	23,238	26,221
無形固定資産合計	404,444	397,318
投資その他の資産	56,137	45,157
固定資産合計	483,942	476,624
資産合計	2,580,139	2,300,423
負債の部		
流動負債		
買掛金	57,340	50,808
短期借入金	450,000	400,000
1年内返済予定の長期借入金	332,948	312,948
未払法人税等	9,667	9,393
賞与引当金	6,500	8,603
返品調整引当金	2,346	6,091
ポイント引当金	4,770	4,208
株主優待引当金	48,630	7,830
その他	140,027	202,919
流動負債合計	1,052,231	1,002,803
固定負債		
長期借入金	394,914	343,440
繰延税金負債	76,699	83,508
資産除去債務	17,250	17,274
その他	1,691	760
固定負債合計	490,556	444,983
負債合計	1,542,787	1,447,787
純資産の部		
株主資本		
資本金	882,788	882,788
資本剰余金	349,152	349,152
利益剰余金	△139,855	△324,085
自己株式	△60,244	△60,313
株主資本合計	1,031,840	847,542
新株予約権	5,511	5,093
純資産合計	1,037,351	852,636
負債純資産合計	2,580,139	2,300,423

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年10月1日 至2019年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年10月1日 至2020年3月31日)
売上高	939,811	907,598
売上原価	219,355	231,295
売上総利益	720,455	676,302
返品調整引当金戻入額	24,063	2,346
返品調整引当金繰入額	2,735	6,091
差引売上総利益	741,783	672,558
販売費及び一般管理費	909,475	839,240
営業損失(△)	△167,691	△166,682
営業外収益		
受取利息	23	17
受取賠償金	875	83
解約返戻金	1,122	—
その他	338	544
営業外収益合計	2,361	645
営業外費用		
支払利息	7,021	6,093
その他	103	276
営業外費用合計	7,124	6,369
経常損失(△)	△172,455	△172,406
特別利益		
新株予約権戻入益	240	417
特別利益合計	240	417
特別損失		
減損損失	10,029	—
その他	983	—
特別損失合計	11,013	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△183,228	△171,989
法人税、住民税及び事業税	1,348	4,265
法人税等調整額	14,469	6,808
法人税等合計	15,818	11,074
四半期純損失(△)	△199,046	△183,063
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△100
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△199,046	△182,963

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)
四半期純損失(△)	△199,046	△183,063
四半期包括利益	△199,046	△183,063
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△199,046	△182,963
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△100

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年10月1日 至2019年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年10月1日 至2020年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△183,228	△171,989
減価償却費	29,589	25,043
のれん償却額	23,258	4,629
減損損失	10,029	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△31	6
賞与引当金の増減額(△は減少)	△3,140	2,103
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△21,328	3,744
ポイント引当金の増減額(△は減少)	—	△562
株主優待引当金の増減額(△は減少)	△34,250	△40,799
受取利息及び受取配当金	△23	△17
支払利息	7,021	6,093
新株予約権戻入益	△240	△417
売上債権の増減額(△は増加)	62,644	60,956
たな卸資産の増減額(△は増加)	△73,114	20,164
仕入債務の増減額(△は減少)	2,750	△38,832
未払金及び未払費用の増減額(△は減少)	39,655	28,881
未払消費税等の増減額(△は減少)	△12,575	5,769
預り金の増減額(△は減少)	1,219	△550
その他	△47,562	20,652
小計	△199,326	△75,122
利息及び配当金の受取額	11	8
利息の支払額	△7,206	△6,063
法人税等の還付額	—	38,399
法人税等の支払額	△11,470	△2,610
営業活動によるキャッシュ・フロー	△217,992	△45,388
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	2,400	50,023
有形固定資産の取得による支出	△791	△7,036
無形固定資産の取得による支出	△7,851	△7,329
事業譲受による支出	—	△15,000
敷金の差入による支出	—	△268
敷金の回収による収入	551	846
差入保証金の回収による収入	—	1,500
その他	72	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,618	22,736
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	—	△50,000
長期借入金の返済による支出	△71,474	△71,474
自己株式の処分による収入	1,131	—
自己株式の取得による支出	△31,095	△68
リース債務の返済による支出	△1,045	△1,082
その他	△201	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△102,686	△122,624
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△326,297	△145,277
現金及び現金同等物の期首残高	1,690,241	1,201,600
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	55,492
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,363,943	1,111,816

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間(自2018年10月1日至2019年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	コミュニケーション・セー ルス事業	化粧品 卸事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	644,300	295,510	939,811	—	939,811
セグメント間の内部売上高又は振替高	288	1,399	1,687	△1,687	—
計	644,588	296,910	941,498	△1,687	939,811
セグメント利益又は損失(△)	△173,335	28,385	△144,949	△22,742	△167,691

当第2四半期連結累計期間(自2019年10月1日至2020年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	コミュニケーション・セー ルス事業	化粧品 卸事業	衛生コンサル ティング事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	569,687	310,936	26,974	907,598	—	907,598
セグメント間の内部売上高又は振替高	240	988	—	1,228	△1,228	—
計	569,927	311,925	26,974	908,826	△1,228	907,598
セグメント利益又は損失(△)	△175,842	19,249	△28,251	△184,844	18,162	△166,682

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益又は損失	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間
報告セグメント計	△144,949	△184,844
全社収益(注)1	150,000	205,320
全社費用(注)2	△129,135	△144,964
その他の調整額	△43,606	△42,192
四半期連結損益計算書の営業利益又は営業損失(△)	△167,691	△166,682

(注) 1. 全社収益は、当社におけるグループ会社からの経営指導料及び受取配当金であります。

2. 全社費用は、当社における持株会社運営に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間に株式会社HACCPジャパンを連結子会社としたことに伴い、「衛生コンサルティング事業」を報告セグメントに追加しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

前第2四半期連結累計期間（自2018年10月1日至2019年3月31日）

（固定資産に係る重要な減損損失）

「コミュニケーション・セールス事業」セグメントにおいて、基幹システムの収益及び費用削減が見込めなくなったこと等により、ソフトウェアの減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては10,029千円であります。

当第2四半期連結累計期間（自2019年10月1日至2020年3月31日）

（のれんの金額の重要な変動）

「コミュニケーションセールス事業」において、当社の連結子会社である株式会社フェヴリナが、株式会社うるわし堂よりエニシングホワイト事業を譲り受けたことに伴い、のれんの金額が11,674千円増加しております。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

連結子会社である株式会社フェヴリナによる事業の譲受

1. 企業結合の概要

(1) 事業譲渡企業の名称及びその事業の内容

事業譲渡企業の名称 株式会社うるわし堂

譲受事業の内容 薬用オールインワンジェル「エニシングホワイト」にかかる製造事業、直販事業及び卸売事業並びに、本件事業に含まれる製品の商標、レシピ及び、本件事業に関する一切の権利及び資産

(2) 事業譲受を行った主な理由

当社連結子会社である株式会社フェヴリナは、化粧品及び健康食品の通信販売事業を行っております。株式会社フェヴリナのさらなる事業強化、並びに顧客サービスの向上を目指し、第3のブランドとして、株式会社うるわし堂より「エニシングホワイト」事業を譲り受けることといたしました。

(3) 事業譲受日

2020年3月31日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする事業譲受

(5) 取得企業を決定するに至った主な根拠

連結子会社である株式会社フェヴリナが、現金を対価として事業を取得したためであります。

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる取得した事業の業績の期間

当第2四半期連結累計期間においては貸借対照表のみを連結しており、四半期連結損益計算書に取得した事業の業績は含まれておりません。

3. 取得した事業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金及び預金	15,000千円
取得原価		15,000千円

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

外部のアドバイザーに対する報酬・手数料等 1,800千円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれんの金額

11,674千円

(2) 発生原因

今後の事業展開により期待される超過収益力であります。

(3) 償却方法及び償却期間

5年間にわたる均等償却